《２０１９年１０月 月例会報告》

＊＊＊

マコンへ行ってきました

－第 12 回　国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告－

山田恵子（自由学園女子部　教諭）

＊＊＊

【日　時】2019年10月24日（木）19：00～21：00（終了後：中華店で懇親会～23：30頃）
【会　場】筑波大学附属高校3F会議室（〒112-0012東京都文京区大塚1-9-1）
【テーマ】マコン（フランス）へ行ってきました
　　－第12回国際ピエール・ド・クーベルタン ユースフォーラム報告会－
【演　者】山田恵子（自由学園女子部／第12回国際YF引率教諭）
【コーディネーター】中塚義実（筑波大学附属高校／NPO法人サロン2002理事長）
【参加者（サロン2002会員）2名】中塚義実（筑波大学附属高校）濱本悟志（筑波大学附属学校教育局）
【参加者（未会員）9名】
青柳秀幸（国士舘大学大学院）、岡山憂　（川崎市立下作延小学校/JOA会員）、諏訪桜子（東京学芸大学教職大学院）、田原淳子（国士舘大学）、内藤智（中京大学附属中京）、祓川由希子（参加生徒保護者）、高橋（参加生徒保護者）山西優香（筑波大学附属高校卒業生/北京大会参加）、山田恵子（自由学園）
【2次会から参加】小池靖
【報告書作成者】山田恵子（自由学園女子部）
注）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加されています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

＜目　次＞

はじめに　.....2
Ⅰ．第12回大会へ向けて－準備過程　.....2
Ⅱ．第12回大会の概要　.....7
Ⅲ．マコン（フランス）にて－第12回大会の実際　.....9
Ⅳ．生徒の感想　.....34
Ⅴ．ディスカッション　.....39
Ⅵ．補足　.....45

はじめに（中塚義実）

皆さんこんばんは。サロン2002の月例会、本日は通算278回です。月一回で278回もやっている異業種ネットワークです。元々はサッカー関係の研究会でしたが、そこにいろんな人が来るようになり、2002年FIFAワールドカップ前から、ワールドカップ後をどうするかという話をしていました。それがいま、TOKYO2020のあとをどうするかという話をしています。

サロン2002の“志”は、「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」です。毎回いろんなテーマで月例会を行っており、オリンピック教育にも、私自身どっぷりつかっていることもあって月例会で何度か取り上げています。

今日は第12回国際ピエール・ド・クーベルタン ユースフォーラム報告会ということで、過去の参加者、保護者、参加校の先生、それも遠方の方などいろんな方がいらっしゃいます。ここでは9時ぐらいをめどにして、そのあと行ける方は近くの中華屋に繰り出そうと考えています。各自のペースでおいでください。

申し遅れましたが、この学校の保健体育の教員として33年目になる中塚と申します。サロン2002の理事長を務めております。

では簡単に参加者の自己紹介をお願いします。（略）

＜以下、引率の山田恵子氏から報告＞

Ⅰ．第12回大会へ向けて－準備過程

◆ユースフォーラムのねらい

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンの思想「オリンピズム」を学び、異文化理解・国際交流に貢献する人を育てる。

「オリンピズム」とは、“身体”と“精神”と“知性”の調和のとれた人間を育て、国際理解・国際平和を進めていこうという人生哲学。

卓越（Excellence）、友情（Friendship）、尊重（Respect）がキーワード。

◆これまでのあゆみ

第 1 回　1997年　ル・アーブル（フランス）
第 2 回　1999年　マッチ・ウェンロック（イギリス）
第 3 回　2001年　ローザンヌ（スイス）
第 4 回　2003年　アレンツァーノ（イタリア）
第 5 回　2005年　ラートシュタット（オーストリア）
第 6 回　2007年　ターボル（チェコ共和国）
第 7 回　2009年　オリンピア（ギリシァ…都立国際高校から2名参加（日本初参加）
第 8 回　2011年　北京（中国）アジア初開催…筑波大附高から2名参加
第 9 回　2013年　リレハンメル(ノルウェー)…筑波大附高(筑附)から2名参加
第 10回　2015年　ピエスタニ(スロバキア)…筑附･自由学園･帝京･中京大附から7名
第 11回　2017年　ウルヌルメ(エストニア)…筑附･自由学園･中京大附･至学館高から7名

１．国内ユースフォーラム開催（2018年12月：2泊3日）

第12回国際YFへの選考を兼ね、筑波大で「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム2018」が開催された（参加者24名）。また東海地区でも中京大学で「JOA第6回ユース・セッションin中京」を開催（参加者16名）。各地で行われたスポーツ活動、講義、知識テストや討論（英語含む）などを通して、国際YF派遣の7名が選出された。　注）後日1名が取消となり、第12回大会の派遣生徒は6名

◆関東地区　「クーベルタン－嘉納 ユースフォーラム 2018」

【主　催】 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）
【共　催】 特定非営利活動法人サロン2002（NPO法人サロン2002）
【協　力】 特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー（NPO法人 JOA）
【期　日】 2018年12月23日(日)～25日(火)
【会　場】 筑波大学、筑波研修センター
【参加者】 これまでのフォーラム参加校　オリパラ教育推進事業参加校から24名

◆東海地区　「JOA第 6 回ユース・セッション in 中京」

【主　催】 特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー（NPO法人 JOA）
【共　催】 中京大学
【後　援】 公益財団法人日本オリンピック委員会、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会
【期　日】 2018年12月25日(火)～27日(木)
【会　場】 中京大学 豊田キャンパス
【協　力】 (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会・東海学園大学
【参加者】 16名

関東地区

東海地区

２．選考と派遣

いずれの会場も2泊3日の活動全体を通して、主催者、共催者が総合的に評価し、選考結果は2019年1月31日付で、「日本ピエール・ド・クーベルタン委員会 会長 清水重勇」名で、国内ユースフォーラム参加校の学校長宛に書面で通知された。

＜派遣生徒　6名＞

高田伊知郎	（筑波大附坂戸高等学校	3 年	競技かるた部）
高橋りく	（筑波大附属高等学校	2 年	野球部マネージャー）
秋川典子	（　　同	2 年	水泳部）
八木　暁	（自由学園高等科	2 年	テニス部）
高田和実	（　　同	2 年	転回運動部）
成田乙葉	（中京大附高等学校	2 年	陸上部）

＜引率教諭 1名＞
　自由学園 女子部…山田恵子
＜派遣母体＞
　日本ピエール・ド・クーベルタン委員会（CJPC）
＊国士舘大学…田原淳子教授（CIPC副会長として参加・日本チームをサポート）
　注）CIPCは国際ピエール・ド・クーベルタン委員会。国際ピエール・ド・クーベルタン ユースフォーラム主催者。

３．準備会

2月ごろから、国際YFを主催するCIPCから定期的にレターが届き、事前課題や日程などと合わせ、国際YFの準備状況を把握。事前課題等の準備を行うため、まず4月7日に第1回の準備会を開き、今後の日程について確認した。各自で進めることや全体で集まって進めることを確認した。

初回は筑波大学附属高校で行い、その後2回は自由学園で実施。各校の先生方が引率し、中塚先生が常に全体をまとめてくださった。

＊学校ごとに参加のサポート体制も違うことから、事前準備の際の東海地区の生徒対応は今後も課題と考えられる。場合によってはオンライン参加でできる方法も検討していけると良いと思われる。

◆初回：2019年4月7日(日)
場所：筑波大学附属高校
活動内容：
・参加者自己紹介
・第12回フォーラム概要
・前回大会の様子
・準備期間の過ごし方について確認
・日本旅行より　旅行案内
・嘉納治五郎像見学　写真撮影

◆第2回：2019年5月12日（日）
場所：自由学園
活動内容：
・講義「オリンピックの歩み」（中塚義実先生　：
　第8～10回国際YF引率教諭・CORE運営委員）
・前回の国際ユースフォーラム日本代表よりアドバイス（自由学園最高学部2年 酒井君）
・ミニエキスポ準備
・ダンスパフォーマンンスの準備
・日本旅行より渡航の注意事項

◆第3回：2019年7月26日（金）

場所：自由学園

活動内容：

・日本旅行より 渡航前最終確認
・ダンスパフォーマンス（南部ソーラン節）練習
・「オリンピックValues」ポスター作成
・シンボルフラッグ作成
・集合、当日の動きの確認
・持ち物・服装確認
・買い物

自由学園での1回目の集まりには国内ユースフォーラムに参加した他の生徒も集まり、校内を案内するなど交流の機会となった。代表の生徒達は渡航前、定期的な集まりだけでなくLINEでグループチャットを作り頻繁に連絡をとっていた。限られた機会を最大限に生かすため、事前にやるべきことをしっかり把握して集まるよう努め、次の会合までに各自がすべき事も確認。それぞれが責任を持って準備を行い、時間を無駄なく過ごすことが出来た。

【シンボルフラッグ】2枚

文化交流のミニエキスポとマコン市内をパレードする際に使用。日本を表すシンボルフラッグになるよう工夫。日本をアピールする魅力的なデザインを考え、最も象徴的である富士山（漢字や桜、鳥居）とポップカルチャーのアニメ（海外でも人気のあるキャラクター）を描いた。東京五輪に向けてのプロモートも兼ね、大会マスコットキャラクターやメッセージも加えていた。

【ポスター課題のテーマ：Olympism at school, it must be encouraged!!】A3③枚まで

12月に筑波大学で行われたユースフォーラムでのオリンピックシンボルマーク作りで出たアイディアを軸に作成。中央の円形のデザインに「オリンピックは1人又は一部の人の力では成り立たず、沢山の人が関わって支え合うからこそ出来上がるものである」というメッセージが込められた。色紙を千切って貼ることで特徴付け、円の周囲にオリンピズムを広げる様子を表すデザインを描いていた。第3回準備会で作成を始めたが完成できなったため、周囲のデザインは各自がカットした紙に書いてきて現地で張り合わせ完成させた。

＊ポスターは会期中会場入口に展示。

４、7月末の時点でのその他の準備

１）各自がボランティア活動を行い実施報告に校長先生の証明をいただく
クーベルタン賞にあるCommunity Service。それぞれ老人施設ボランティア、震災支援活動などに取り組んだ。

２）揃いのウェア：法被の用意…創作演武（ソーラン節）を披露する際に全員着用。筑波大学のつくば国際スポーツアカデミー（TIAS）より貸与

３）チームウェア…チームとして統一感を出すためにウェアを揃えたいと希望があり、今年は特注せず、東京オリンピックのポロシャツを購入した。

４）交換するプレゼントの用意

・CJPC田原先生より…3か国語で書かれたクーベルタンの絵本を２冊いただき、1冊を現地での贈り物に加える。

・日本らしいお土産を各自で揃えた。

５）保護者誓約書…CIPC に提出する誓約書

６）宿泊の手配と移動の確認
パリでの2泊（日本旅行手配）およびマコンへのTGV移動について連絡調整
マコンからは大会組織の送迎あり

７）その他…第12回大会ウェブサイト掲載用のプロフィール作成

８）「クーベルタン賞」個別学習
筆記試験やスポーツテストへ向けての事前学習及びトレーニング。英会話スキルの向上。

Ⅱ．第12回大会の概要

【開催都市】マコン（フランス）

第12回大会は、フランスのマコン (Mâcon) で行われた。パリから400km、フランス中央部、ソーヌ川河畔に位置するブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏の都市で、人口は約3万6千人。主な産業は、ワイン製造、畜産業、ソーヌ川を利用した河川運輸、金属工業。中世のマコンは、ブルゴーニュ公爵領に併合された伯爵領の首府として繁栄し、カトリック教会の司教座がおかれ大聖堂が現在も残る美しい町。

【参加国（ABC順）】

アルゼンチン、オーストリア、ブラジル、コンゴ、キプロス、チェコ、エストニア、フランス、ドイツ、イギリス、ギリシャ、インド、イ

タリア、日本、ケニア、マレーシア、ノルウェー、ポーランド、南アフリカ、ロシア、スロバキア、スペイン、ウクライナ

＊23か国25校。生徒約120名、ボランティア及び教職員を含め 全体で約170名。

＊代表選考会を経て生徒を選出した国は日本、フランス、コンゴの3国。その他はクーベルタンスクールから参加。オーストリア、ドイツは基本1国1校参加だが2校参加。フルメンバー参加校は生徒7名。オブザーバー校などで2名参加が９国あった。

【宿　舎】Centre Omnisport de Mâcon

宿舎一体型のスポーツ施設で移動がスムーズ。生徒は3人～5人程度の相部屋。階ごとに男女ほぼ分かれる。シャワーは各部屋に設置、カーテンがなく生徒は驚く。教員は二人部屋。食事はとても充実。無断外出は禁止。夜11時に生徒の揃いを確認。

【参加校】

1) Argentina: Colegio Padre Ramon De La Quintana
2) Austria 1: Pierre de Coubertin Bundes-Oberstufenrealgymnasium
3) Austria 2: Don-Bosco-Gymnasium Unterwaltersdorf
4) Brazil: Escola de Educação Básica da URI Erechim/RS
5) Congo: Winners of the National Coubertin Award organized by the Comité National Pierre de Coubertin du Congo
6) Cyprus: Pagkyprion Gymnasion Nicosia
7) Czech Republic: Gymnázium Pierra de Coubertina Tábor
8) Estonia: Ülenurme Gümnaasium
9) France: Winners of the Coubertin Pupils' Prize of the region of Burgundy-Franche-Comté
10) Germany 1: Schul- und Leistungssportzentrum Berlin
11) Germany 2: Pierre de Coubertin-Gymnasium Erfurt
12) Great Britain: William Brookes School Much Wenlock
13) Greece 1: 1st Gen. Lykeio Pierre de Coubertin Pallini
14) India: Indian Pierre de Coubertin Association
15) Italy: Liceo Statale "Giuliano della Rovere"
16) Japan: Winners of the National Coubertin Youth Forums selected by the Japanese Pierre de Coubertin Committee
17) Kenya: Kipkeino High School
18) Malaysia: Senior Methodist Girls School Kuala Lumpur
19) Norway: Gausdal videregående skole Pierre de Coubertin
20) Poland: Zespół Szkół w Nekli Gimnazjum im. Polskich Olimpijczyków

21) Republic of South Africa: Foundation for Sport and Development and Peace
22) Russia: Lycée N° 211 Pierre de Coubertin
23) Slovakia: Gymnásium Pierra de Coubertina Piešt'any
24) Spain: San Juan Bautista – La Salle Corrales
25) Ukraine: Secondary school #142 Pierre de Coubertin Dnipro city

【主な日程】

8月22日(木)　10:40羽田空港発　16:15パリ シャルル・ド・ゴール空港着、周辺散策
8月23日(金)　パリ観光、パフォーマンス準備など
8月24日(土)　TGVでマコンへ移動、マコン スポーツセンター到着、アイスブレイク
8月25日(日)　CIPC代表講義、マコン市内散策、記念植樹、開会式、ダンスパーティー
8月26日(月)　アートワークショップ①、スポーツテスト練習、ディスカッション①、知識テスト、mini EXPO
8月27日(火)　スポーツテスト、ディスカッション②、アートワークショップ②、選択スポーツ、フォークパーティー
8月28日(水)　スポーツテスト、アートワークショップ③、ディスカッション③、アートワーク発表会
8月29日(木)　Cluny town観光、パレード、市内ステージで各国のダンス発表会
8月30日(金)　アンケート、スポーツ(補完)、閉会式、ダンスパーティー
8月31日(土)　TGVでリヨンへ移動、周辺散策、TGVでシャルル・ド・ゴール空港20:30発
9月 1日(日)　15:25羽田空港着、解散　19:55セントレア国際空港着(中部組)

Ⅲ．マコン（フランス）にて－第12回大会の実際

【会期モットー】 **Olympism at school. It must be encouraged!**

【主なプログラム】

◆クーベルタン賞に関する活動◆

1) 社会貢献活動：事前に行う、地域のボランティア活動
2) 知識テスト：オリンピック知識テスト
3) スポーツテスト：クロスカントリー、水泳(50m自由型)、アンティックロングジャンプ、100m走、ボッチャ(車いす)
4) アートパフォーマンス：９つのワークショップから選択(ダンスや音楽など)
5) グループ討議：オリンピズムについてディスカッション(3テーマ)

＊スポーツテストには基準値が設定され、5種目中4種目をクリアしなければならない。

◆スポーツ・文化交流活動、近郊都市観光

1) パラリンピック種目、フランス伝統のスポーツ、ダンス、バスケットボール、バレーボール、ラグビー、サッカー、卓球など
2) ミニエキスポ：体育館に各国がブースを設けて交流。
3) マコン市内でパレード・野外ステージで各国のダンス披露：日本はソーラン節
4) 観　　光　：マコン市内／古都クルュニー市内

【実際の様子】

1日目　8月22日(木)　日本出国

8月22日(木)		
6:30	中部組　空港集合	中部セントレア国際空港
8:40	東京組　空港集合	羽田空港
10:40	出発	羽田空港
16:15	到着	シャルル・ド・ゴール国際空港
18:00	ホテル到着	パリ　ホテル・チャリングクロス
	周辺散策・夕食	

関東組は時間に皆が揃い、日本旅行担当者の案内で中部組の成田さんも無事に合流。ご家族に送られ出発した。機内では知識テストの準備など行いながら過ごした。フランス、シャルル・ド・ゴール国際空港に到着。両替は各自が集合前に済ませ、すぐに空港内売店で飲み物等を購入出来た。その後、田原先生に教えていただきながら初めてバスチケットを自動販売機で購入し、宿泊するパリのホテルに向った。

生徒は全員が始めてのパリで、高田さんと成田さんは海外自体も初めてだったためやや不安げだが、一つ一つのことに好奇心を持って行動していた。

バスからだんだんとパリ市内の趣のある建物が見えてくると皆が高揚してくるようだった。ホテルは観光の中心部、オペラ座から歩いて10分程度のところにある3つ星ホテルだったが、大きな通りの裏手にありバス停からは人通りの多い石畳の道をスーツケースを押して歩くため、スリなどに注意を払いながら移動した。

ホテルでは3フロアに分かれた。エレベーターは昔の映画に出てくるような手動式で、さらに最上階には螺旋階段を荷物を持って上がる必要があり苦労した。周辺を散策し、近くの飲食店で夕食。高田君は相席した少女に片言のフランス語で早速声をかけ、その積極的な様子に皆で感心していた。フランスは夜9時頃まで明るい時期の為、時差ボケに加え、体調管理により一層注意を払って過ごした。

2日目　8月23日(金）市内観光

8月23日(金)		パリ　ホテル・チャリングクロス
6:30	起床	
7:30	朝食（ホテル）	
9:00	パリ観光	凱旋門 エッフェル塔 ルーブル美術館等
21:00	帰ホテル	
23:00	就寝	パリ　ホテル・チャリングクロス

2日目は時差調整を兼ね、パリ市内の観光に出かけた。出発する前にロビーでダンスパフォーマンスの練習を行った。生徒は事前に音源や参照する振り付けの動画を準備し、どこでも練習できる状態にしていたことで隙間時間を有効に使うことができた。

パリ市内の観光は田原先生からご紹介いただき、「クルーズツアー」から始まった。ここで街の大枠を把握し、その後「凱旋門」「エッフェル塔」「ルーブル美術館」の順に見学した。船を待つ間もダンスの練習を行っていると人が集まってくる場面もあった。セーヌ川沿いには歴史ある建物が並び、火災で修復中のノートルダム大聖堂の様子も見ることが出来た。昼食は奮発してシャンゼリゼ通り沿いのレストランでフランスならではの料理を堪能した。バスや歩きでの移動を上手に組み合わせ、見るポイントを決めて皆で協力して観光し、フォーラム前にチームとしての良い関係作りとなった。地下鉄ではスリにあいかける場面もあり、その後も荷物はいつも順番で見守る等、旅行期間中、緊張感を持って行動した。この日の就寝前には皆がサプライズで成田さんの誕生日を祝い交流が深まっていった。

生徒の感想には「これまでテレビやネットの中で見ていた建物を実際に目にすることができたことは大きな衝撃だった。特に凱旋門で実際にその大きさと堂々とした佇まいを見た時の感動は大きかった。画面では感じられないその環境の空気感や周りの雰囲気、人が行き交う様子などは現場に行かないと感じられないものが多く、これからの活動を強く後押ししてくれるようなエネルギーを得ることができた。」とあり、文化や芸術面も重視したクーベルタンの思想をも学ぶ貴重な機会となった。

3日目　8月24日(土)　パリからマコンへ移動

8月24日(土)		パリ　ホテル・チャリングクロス
	到着	マコン　スポーツセンター
	ガイダンス	
19:00	夕食	
20:00	教師ミーティング	
20:00-22:00	親睦会（アイスブレイク）	
23:00	就寝	マコン　スポーツセンター

３日目は朝、美しい装飾の老舗の百貨店を見学し、その後ホテルを出発、パリからユースフォーラムの行われるマコンへ移動した。ホテルからタクシーでリオン駅へ向かい、リヨン駅からはTGVでマコンへ。車内で昼食をとり、オリンピックについて知識テストの勉強をして過ごし、皆、田原先生に積極的に質問していた。

マコン駅に到着するとフォーラムのスタッフが出迎えてくださった。レスリングの国際審判長とのことで驚いた。ちょうどCIPCヴァッソング会長にもお会いしご挨拶した。駅ではコンゴやイタリアのチームと顔を合わせた。駅からは送迎車で施設へ向かった。運転はレスリングのオリンピック選手のコーチを務める方と伺い恐縮した。今回のメインスタッフは年配の方も多く、元オリンピック選手やコーチなどもいらして、多くの方が運営に関わってくださっているようだった。

マコンは田園風景やカラフルでしゃれた街並みが続き、のどかでパリとはまた違った美しさだった。

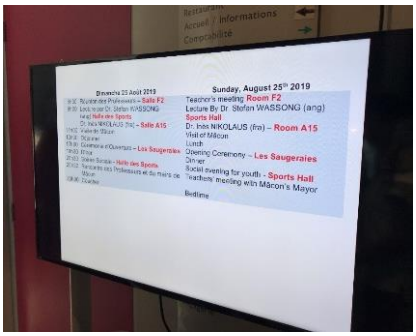
宿舎では大学生のボランティアスタッフが出迎えてくれた。同じ施設内で男女は階が分かれていて、各部屋にはベッドとシャワーがあり、2～5名程度の複数名で一部屋となっていた。大人は2名1室。

生徒達は早速施設の中にあるラウンジへ行き、他国の人たちとのテーブルサッカーなどをしつつ交流の輪を広げていった。全員集合し短くミーティングがあり、フォーラムの概要などの説明があった。生徒は日本人だけで集まることもなく、それぞれで席につき、初日から自然体で頼もしい姿だった。夜にはボランティアの大学生中心に、お互いを知り緊張を和らげる目的でアイスブレイクが行われ、徐々に参加者の一体感が生まれていくようだった。

4日目　8月25日(日)　オープニングセレモニー・マコン市内散策・記念植樹

朝食は組み分けが張り出され、グループごとの自由席でいただいた。皆積極的に様々な国の人の隣についていた。ビュッフェスタイルで、用意された数種類からそれぞれ選ぶことが出来た。

毎朝、晩、教師のミーティングも行われた。その日のスケジュールは掲示板で表示されたが、表示がすぐにローテーションしてしまうので見にくく、最後は手書きの時程表が張り出されていた。



8月25日(日)		マコン　スポーツセンター
8:00	朝食	
8:30	教師ミーティング	
9:00-10:30	講義：ピエール・ド・クーベルタンについて	マコン　スポーツセンター
	・ステファン　ワッソン教授(CIPC代表)英語	
	・イネス ニコラス教諭(CIPC副代表)仏語	
11:00-13:00	マコン市内散策	
13:00	昼食	
14:00-16:00	オープニングセレモニー準備	
16:30-16:45	記念植樹	
17:00	開会式　オープニングセレモニー	外部　ホール
	歓迎の言葉：マコン市長	
	スピーチ　：CIPC代表	
	スピーチ　：仏 国際オリンピック・スポーツ委員会	
	スピーチ　：兼 2024年パリ五輪組織委員会	
	プレゼン　：クーベルタン賞のコンペと参加校紹介	
	スピーチ　：CDOS71 代表	
19:30	夕食	
20:30	教師ミーティング　W/市長	市庁舎
	生徒たちの社交の夕べ（ダンスパーティ）	マコン　スポーツセンター
23:00	就寝	

朝食後、CIPC会長よりクーベルタンについての講義を伺った。この時も日本の生徒は自然とばらばらに着席していて、他国の生徒と関わりを持てているようだった。その後、いくつかのグループに分かれてマコンを散策した。ボランティアの学生がリーダーとなって歩いた。マコンはソーヌ川を挟んで新しい町と古い町並みが融合した美しい町で、歴史的な木造の建物やローマ時代の教会、戦争の慰霊碑などを見学した。見学では揃いの青いTシャツを着るよ

うに指示があったが、着ていたのは日本を含め少数で、お国柄が伺えるようだった。生徒達は町を観ることだけでなく、同じグループ内で盛んに自己紹介をして、少しずつ仲の良い友達を作り、一緒にたくさんの写真を撮り合うようになっていった。

施設に戻って昼食を取り、ツリーアダプションセレモニーが行われた。フォーラム開催の記念樹がCIPC会長、副会長の田原先生らの手で植えられた。

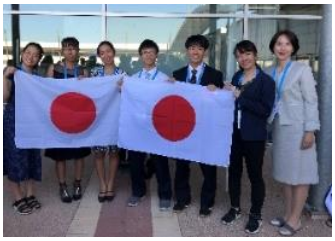
写真左：田原先生

写真右：左からイネス先生・山田・アレキサンドラさん・ヴァッソング会長

〈開会式〉

その後、指定だったフォーマルな服装に着替えて大型バスで近隣の体育館へ移動し、開会式が行われた。日本チームはワンピースなど各自で用意したが、揃いのウェアを着てくる国もあった。

開会式では音楽隊の演奏に迎えられ、CIPC会長はじめ、組織委員長のイネス先生、近代オリンピックの創設者であるクーベルタン家のアレキサンドラさん、そしてマコンの市長など、各組織代表の方々からご挨拶があった。



また今回は、2024年のパリ開催のオリンピックに向けて特別に、フランスオリンピック委員会会長も出席し挨拶された。参加23ヶ国25チームの紹介があり、地図が映し出された後、各国のチームがそれぞれ立ちあがり、用意してきた国旗を振って大きな拍手と歓声に答えた。この様子は地方紙にも取り上げられた（その後も期間中毎日大会の様子が掲載され、各自にも配布された）。

閉口したのは、お話はフランス語と英語で行われたため、この夏フランスはかなり暑さが厳しく、クーラーなしで長時間座っていると汗がしたたるようだった。

夕食後、宿泊施設の体育館でソーシャルイブニングと題してダンスパーティーが開かれた。フォーラムのボランティアの学生が主催、生徒のリクエストに答えながら音楽を流し楽しそうに踊っていた。日本の皆も新しくできた各国の友達と一緒になってその時間を楽しんでいた。

引率者は18世紀の建物である市庁舎に招かれ歓迎を受けるとともに、田原先生はじめ功績のあった先生方がメダルを授与されて少量のワインが振る舞われた。

宿舎に戻るとちょうどダンスパ―ティーも終盤、大盛り上がりだったが、時間になるときっかりボランティアスタッフが終了の合図を出し、各自さっと部屋に戻っていった。勝手に外へ行ってはいけない約束があり、期間中は広い施設内で皆過ごしていた。

地元紙に毎日掲載

ACTU SAÔNE-ET-LOIRE ET RÉGION

« Nous sommes fiers de participer au prix Pierre-de-Coubertin »

« Pendant une semaine, ici à Mâcon, vous allez vivre une expérience inoubliable »

高橋さんインタビュー記事

ACTU SAÔNE-ET-LOIRE ET RÉGION

Les cinq continents ont couru pour le prix Pierre-de-Coubertin

Défilé, tenues et danses traditionnelles ce jeudi

生徒：交流会(ダンス)

教師：歓迎レセプション 市庁舎にて

5日目　8月26日(月)　知識テスト　ミニExpo　アートワークショップ①ディスカッション①

日時	活動	場所
8月26日(月)		マコン　スポーツセンター
7:15	朝の体操	
8:00	朝食	
9:00-11:00	クーベルタン賞の活動	
	アートワークショップ　1	
11:00-13:00	モルック(フランスで馴染みの球技) or 水泳	
13:00	昼食	
14:00	教師ミーティング	
14:00-16:00	クーベルタン賞の活動	
	グループディスカッション１：フェアプレイについて	
16:00-17:00	クーベルタン賞の活動	
	知識テスト	
17:00-18:00	ミニExpoの準備	
19:00	夕食	
20:00-22:00	ミニExpo	
21:00	教師ミーティング	
23:00	就寝	マコン　スポーツセンター

＜朝の体操＞

毎朝 7:15 から朝の体操が行われた。男性教員 2 名が指導。エアロビクスと体操と筋トレを合わせてもう少しリズミカルにした感じの動きで音楽なしで動いていた。全員参加で外の広場に集まったが、朝なので遅れてくる人も少数みられ、皆の起床を確認する機会にもなっていたと思われる。眠い目をこすりながら集まってきても、終わりにはすっきりした表情に変わっていた。

モーニングエクササイズ

会期後半は室内でペアや複数でも活動し、ボールを使った運動も行った。男女全員が一緒に運動する活動はこの時くらいで、良い機会になっていた。

最終日はインドの男子生徒がヨガを教えてくれた。質問すると小さい頃から学校で行ってきたとのことだった。

＜アートワークショップ①＞

9つのプログラムが用意された。同一プログラムには各国から1名ずつと決まりがあり、それぞれ興味のあるワークショップを選んで参加した。

歌やダンス、劇、クイズ制作、バッチやバナー作りなど豊富な内容で、各校の引率教員が主に指導してくださっていた。毎日この活動があり最後に近郊の体育館で発表会が行われた。田原先生によると、以前はアートパフォーマンスを国ごとに行っていたが、負担が大きいので現地で行う小規模な形に変わってきたとのこと。発表で好評だった活動は選ばれて閉会式での発表を行った。

アートワークショップ　Ateliers d'Art – Workshops

N°	Art workshop	Professeur -Leader	Courte description - Short description
1	Bannière du Forum Forum banner 高田 伊知郎	Rosanna LA SPESA (ITA) Roger OGOLA (KEN)	Les participants devront créer une grande bannière, un patchwork représentant toutes les drapeaux des nations présentes et symbolisant l'amitié entre les jeunes du monde The participants are asked to create a big banner, a patchwork representing all national flags of the participating nations, symbolizing the friendship of the youths of the world.
2	Théâtre Theater 成田 乙葉	Etienne REB Florette NOIROT (FRA)	Les participants produiront une pièce courte, historique et comique, en anglais et en français. The participants will write a short historical comedy in English and French language.
3	Chanson française French Song 萩川 典子	Alexia DOUHERET (FRA)	Apprentissage et production d'une chanson de la variété française moderne. Learning and production of a song of modern French variety.
4	Improvisation de chants & percus-sion corporelle Song improve, body percusssions	Christoph WOHLSCHLAGER (AUT1) 高橋　りく	Les participants devront chanter et faire un rythme ensemble : faire un cercle de chant, produisant un morceau avec les percussions corporelles. The participants are asked to sing and make rhythm together: we will do Circle Singing, produce a piece for body percussion and one song
5	Chanson du Forum Song Forum	Dennis DAWSON (IND)	Les participants créeront une chanson du Forum pour toute la communauté du Forum. The participants will create a forum song for the whole forum community.
6	Danse Moderne Modern Dance 高田　和実	Marie Lou NOIROT (FRA)	Travail de cohésion pour créer une chorégraphie originale avec l'esprit et les idées de l'équipe de toutes les nations représentées. Working together to create an original group choreography with team spirit and ideas from all countries represented
7	Gymnastique douce et danse Easy gymnastics and dance	Laure BERTHAUD Laurence PRICAK (FRA) 八木 暁	Atelier d'art contenant des pas de gymnastiques et de danse humoristique. Workshop containg basic gymnastic steps through humour.
8	Quiz Numérique Digital quiz	Viktoriia MYKHAILOVA (UKR)	Création de plusieurs questionnaires sur Coubertin et le mouvement olympique qui pourraient être utilisés pour l'éducation olympique Creation of several digital quizzes about Coubertin and the Olympic movement to be used for Olympic Education
9	Création de badges Creation of badges	Eva CORTICELLI (SVK)	Dessiner et produire des badges représentant le forum. Designing and producing badges representing the forum

１．バナー（旗）制作では事前にそれぞれの国の旗に入っている色の布と糸、針を持ってくるように指示されていた。各国の旗の色がだんだんに組み合わされて一つの大きなバナーに仕上げられていった。参加した高田君はこの活動での熱心な取り組みを認められて、閉会式で 5 大陸の代表としてスピーチする役割をいただいた。

田原先生に伺うと、指導者のロザンヌ先生は、定年退職されたがこの為に招かれた芸術家。今回は今までにないアイデイアで行われた。写真は先生からのメッセージである。

I am grateful to Mes Nikolaus and all the colleagues for accepting the proposal of the new way of creating the Banner. I thank students from various countries who made an effort in carrying out this experiment.

This new proposed idea was born from a recent experience that I had with persons with a rather slowmotor capacity, and who have been able to recuperate the movement when stimulated by the action of 'pulling out' and later elaborating the material by sewing (stitching) or making knots.

I have been able to observe that these actions which seemed simple actually reactivated in these persons their energy and attention.

Another important aspect,other than the functional aspect,within this context,made me discover the symbolic value found in the gesture of 'pulling out' and 'sewing'.

Therefore, I decided to share this experience at the Forum and adapt it to the creation of the Banner by using strips of material with colors of the flag that we wish to create, by intertwining and sewing in order to give the impression of work done in cooperation and through interaction of energies.The weavingof the material owes its force to the threads that it is made of, and so do the human beings, like these threads that intertwine, give life to moments of getting together and creating bridges of friendship.

To this, we add a meaning to the action of sewing, an action of unity, putting together the threads and the material just like ideas for the achievement of a common goals in pursue of values synthesized in the thoughts of Pierre de Coubertin and the Olympic motto: "Citius, Altius, Fortius".

２．成田さんは演劇に参加。フランス語と英語で行われ、成田さんは英語を選択して演技を行った。

３．フランス語の歌に参加した祓川さんは「フランス語が全くわからない生徒が半分以上だったが、先生がとても陽気な方で、歌うのを楽しむことを最優先に歌いなさい、と言われたのでとても楽しく歌うことができた。フランス語でわからないところはフランス語のできる子に教えてもらって練習をした。比較的少人数のグループだったのでメンバー全員、そして先生と仲良くなれた。」と振り返っている。

４．ボディパーカッションに参加した高橋さんは、「先生が素敵でとても楽しかった」と生き生き話し、そのパフォーマンスは発表会で好評だったため、選ばれて閉会式でも発表した。

５．髙田さんの参加したダンスは、流行りの音楽でフォーラムの大学生ボランティアが中心となって指導していた。苦手そうな生徒も段々とリズムに乗って動いていた。髙田さんは転回部の柔軟性も活かし良く動いていて、閉会式での発表も行うこととなった。

６．八木君はイージーステップ・ジムナスティックでステップ台を使った体操を行った。男子でも動きやすい運動で、基本の動きからだんだんに複雑な動きに取り組んで発表の演技に工夫されていった。

日本チームが参加しなかったものは他に、クーベルタンの思想をデザインしバッチにする活動（最終的には全員が好きなデザインのバッチをいただいた）と、フォーラムソングを創作する活動、パソコンでオリンピックのゲームを作る活動等があった。

＜モルックとスポーツテスト練習＞

ボランティアスタッフの中に日本人担当の学生がいて、私たちの行動を助けてくれた。フラン人の女性で日本語を学んでいるとのこと。優しい親切な女性で片言の日本語が通じて皆安心していた。モルックは皆馴染みがなかったがボランティア学生がサポートしてくれた。

男女に分かれて、女子は最初にパラスポーツのボッチャやモルックを体験した。モルックはフランスの伝統的な競技で、数字が入っている木を倒すゲームだった。フランス人の年配の方たちがボッチャなどを指導してくださった。ボッチャは、車

いすに乗る、又は腕を固定させるバンドを腕に巻き、身体の不自由な状態でボールを投げた。生徒の感想では、「力の強弱をつけづらく、結構難しかった」とのことだった。

後半は宿泊場所から少し歩いたところにある施設に移動し水泳の練習を行った。プールは25mプールと、スライダーと、外には飛び込みプールもありとても充実していて、生徒が使用している間は室内が貸し切りになっていた。屋外のプールは一般の家族連れなどが楽しんでいた。

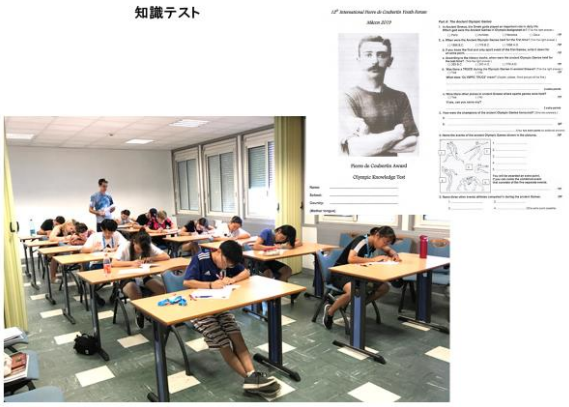
水泳は飛び込みが必須とのことで、ある程度泳げる人は飛び込みの練習をしていた。インドやアフリカから来ている生徒は泳いだことのない人が多いようで、教員が指導する様子も見られた。水泳部の祓川さんはルームメイトと競ったり苦手な人に泳ぎや飛び込みを教えたりして生き生きとしていた。他の生徒達も各国の生徒達と熱心に練習に励んでいた。

＜ディスカッション①＞

始めに全体で説明があり、その後ワークショップのチームに分かれ、思い思いの場所や方法でディスカッションを始めた。3つのテーマが用意されていて、この日は「フェアプレー」についてのディスカッションだった。車いすに乗ったり、体育館のDOJO(レスリング場のような場所)で座ったり、マットに寝ころびながら行うチームもあった。議題に沿った意見を言い合い、それを記録係の生徒が書き留めたりしながら話し合いを進めていた。英語が流暢な生徒ばかりでなく、英語圏の生徒は筆記にまわり司会は他の生徒が務めて皆から意見が出やすいようにするなどそれぞれ工夫しながら話し合っていた。日本の生徒達も無言になってしまうような難しい議題でも少しずつかみ砕いて結論を出そうと努力したとのことだった。八木君は海外での留学経験もあり、様々な取り組みで積極的に皆をまとめる様子が見られた。

＜知識テスト＞

飛行機の中でも、移動中の電車でも皆かなり心配し直前まで勉強していた知識テストだった。いくつかの国ごとに分かれて引率教員が付き、試験を行った。日本チームは直前に知識を詰め込んでいる感じなのに対して、同じ教室のギリシャの生徒は余裕の面持ちだったと生徒達は驚いていた。試験は事前に配布された過去問題やフォーラムでのレクチャーの内容がほとんどだったようで、心配に反して皆大体書けてほっとした様子だった



＜ミニエキスポ＞

事前準備にかなり力をいれて皆がとても楽しみにしていた。日本チームのテーマは「お祭り」。射的やとんとん相撲、けん玉、景品のお菓子などを用意した。日本で制作した旗は正面の良く見えるところに2枚並べ、机には風呂敷を敷いて日本らしい色合いを出すなど工夫していた。射的の纏は高田君中心に日本のアニメや東京オリンピックのマークを入れるなど、凝った趣向で用意された。全員が浴衣を着て臨んだ。髙橋さんが着物を余分に用意してくれ、皆の着付けも担当するなど活躍していた。浴衣は皆の想像以上に好評で、開始前から日本人の周りでミニ撮影会が行われていた。

ブースでは射的で的に当たると日本のお菓子を選ぶことが出来たので他国の生徒達も嬉しそうだった。けん玉は八木君がとても上手に教えていて、常に大勢に囲まれていた。また、名前を平仮名やカタカナなど筆で書いてあげることも大人気だった。旗も人目を惹き、日本のブースは大成功だった。

他の国の生徒達もそれぞれの民族衣装を着て、国の文化を楽しく披露していた。

日本の生徒達は交代で他の国のブースを回り、珍しい食べ物や飲み物、インドの伝統のペイントなどを体験し交流を深めていた。お互いの文化を紹介し合う中でこれまで以上に気軽に会話できる場面も多く、たくさんの新しい友達ができたようだった。

ミニエキスポ準備 日本ブース

ミニエキスポ

6日目　8月27日(火)　スポーツテスト グループディスカッション② アートワークショップ②
選択スポーツ　フォークパーティー

8月27日(火)		マコン　スポーツセンター
7:15	朝の体操	
8:00	朝食	
9:00-12:00	クーベルタン賞の活動　スポーツテスト	
	(100m走　古代スタイルジャンプ　水泳５０m)	
12:30	昼食	
14:00	教師ミーティング	
14:30-16:00	クーベルタン賞の活動	
	グループディスカッション２：Citius,Altius,Fortius	
	(より速く，より高く，より強くー卓越のための努力)	
16:00-17:30	クーベルタン賞の活動	
	アートワークショップ２	
18：00-19:00	スポーツ能力の向上：オリンピック・パラリンピックスポー	
	（選択：バスケット、バレーボール、ラグビー、サッカー	
	車いす卓球、エアロビクス）	
19:30	夕食	
20:30-22:00	フォークパーティー	野外
23:00	就寝	マコン　スポーツセンター

＜スポーツテスト：100m走＞

宿泊している建物から少し離れた広い芝生で行われた。整地されたグラウンドではなく、スタートが斜面になっていて芝生も濡れていて滑りやすかったため、参加者の何人かが転ぶハプニングもあった。しかし陸上の場面は各国の生徒達が一番真剣な表情で入念に準備運動をし、自分のベストを発揮できるよう熱心に取り組んでいた。

陸上部の成田さんは素晴らしい走りを見せていた。生徒の感想には、転んでしまったケニアの参加者が「ベストを尽くせたから悔いはない」と言っていたことが心に残ったという声が聞かれる等、互いに良い刺激を受けたようだった。

Sporting Disciplines 2019

Every student will take part in **5 disciplines**:

1. Cross country – Boys 2km, Girls 1.7 km
2. Swimming 50m
3. Sprint 100 m
4. Long jump with halters (= ancient sport)
5. Boules from a sitting position
   (typical French sport,　paralympique type)

＜スポーツテスト：立ち幅跳び＞

立ち幅跳びは古代オリンピック競技のスタイルで行われた。両手に重りを持ち、それを振りながら両足で3回前にジャンプして、進んだところの記録を測るというものだ。事前に資料を見てもどのような感じになるのか皆様子が分からなかったようだった。実際に初めて経験してみると、スポーツテストの立ち幅跳びに似ていたこともあり、思ったより親しみやすかったようだ。日本のメンバーは良く跳べていて、特に髙田君が好成績だった。ギリシャやイタリアの参加者の脚力にも驚いていた。

100m走の会場の傍にスイミング施設があり、男女別で５０ｍ自由形のタイムトライヤルを行った。水深が深く飛び込み台がついている本格的なプールだったので、泳いだ生徒は感覚的にもタイム的にも水は日本よりも泳ぎやすかったと感じたようだ。祓川さんは水泳部の実力を発揮して見事な泳ぎで好タイムを出していた。インドやアフリカなどの生徒は初めてプールで泳ぐ生徒もいるようで、イタリアの教員が水に入ってサポートしながら何とか泳ぎ切る姿に皆で声援を送る場面も見られた。

＜スポーツテスト：ボッチャ＞

ボッチャは前日のスポーツテストの練習では屋外で練習していたが、本番は全員車いすを使用し周囲に見学者もいて練習より難かしく感じたようだった。体育館は砂のようにボールが止まらず床が滑りうまく的に置くことができなかったため、日本チームの女子メンバーはボッチャで誰も規定ラインを満たすことができなかった。簡単そうに見えて一番難しかったと感想があり、今後は日本でも室内ボッチャの練習をしていく必要があると感じた。

＜ディスカッション②：Citius, Altius, Fortius, Striving for Excellence＞

昼食後、２日目のディスカッションを行った。１日目と同様アートワークショップのメンバーと行った。トピックは”Citius, Altius, Fortius - Striving for Excellence” だった。20人ずつ位のグループにそれぞれ分かれたが、全員で一緒に話し合いを進めるグループもあれば、分担して少人数で話し合う人たちもいたようだ。事前に話すことを準備している人もいたが、大半はその場で意見交換をして、マインドマップを活用するなど工夫しながらそれぞれの考えをまとめていた。

＜アートワークショップ②＞

2回目のアートワークショップを行った。生徒はそれぞれの活動に入り、クーベルタンクールの引率は指導を受け持っている人たちが多かったがその他の引率はそれぞれの活動を見学して過ごした。どのグループも緊張が解け、だんだんに打ち解けていっていて生き生きと活動していた。内容も日ごとにレベルが上がっているようだった。モダンダンスではダンスを得意と

する生徒もいる反面、踊ったことが無い人も何人かいたようだったが、楽しんで良い雰囲気の中で練習できたようだ。一つのものをみんなで作り上げることを大切にしながら演技がまとまっている様子だった。バーナム作成では見事に各国の国旗の入り混じった迫力のある旗が出来上がっていった。

中心にはクーベルタンの顔も描かれていた。バッチ制作ではクーベルタンの思想を描いた思い思いのデザインでバッジが作られた。日本人の参加しなかった活動もあり、見学すると指導者の工夫もありどの活動も充実しているようだった。

Other sport activities:

Morning Gymnastics

Individual sports like :
- Table Tennis
- Aerobics
- Badminton
- Sport Boules
- Pétanque

Team sports :
- Basketball
- Rugby
- Volleyball

＜選択スポーツ＞

選択スポーツはバレーボールなど男女混合で温かい雰囲気で行われ交流を深めていた。フロア内にはパラスポーツ選手のポスターが貼られていて、車椅子で卓球やバスケットを行うなど段々に自分たちで工夫して楽しむ生徒も増えていった。Tシャツにお互いメッセージを書き合う姿も見られた。

＜フォークパーティー＞

夕方からボランティア学生中心にフォークパ―ティーが催された。キャンプファイヤー的なものを想像していたがそのようなことはなく、近くの広場に集合すると、中心でボランティアスタッフがカントリーソングを歌ったり踊ったりして開会した。すると段々に各国の生徒が代わる代わる自分の国の歌や踊りを披露し始めた。最初の方では歌いたい人が前に出て歌い、それを聞いて携帯のライトを左右に揺らしてリズムをとりながら盛り上がっていった。インドの生徒は1人で歌う生徒もいて皆刺激を受けていた。日本の生徒達も、急遽何か日本の歌を紹介したいと考え、今回は即興で「キセキ」を歌い拍手が送られた。

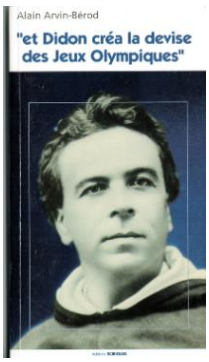
＜食事＞

毎回の食事は主菜が肉や魚から選べるようになっていて、チーズやフルーツ、デザートまで数種類用意されとても充実していた。毎日フランス料理！のようだった。またスタッフの方が給仕するというよりは「食事を楽しんでね」と 1 人 1 人に声がけしてくださり、スポーツの総合施設の中にあっても、栄養管理というより食事を楽しむことを大切にしているフランスの文化が感じられ心地よい時間となった。

＜教員のミーティング＞

毎朝夕の教師ミーティングの他にこの日は日中に集まりがあり、閉会式で披露する歌の練習を行った。先生方の中には太鼓やギターを上手に弾きこなす方がいらして常に軽やかにリズムをとりながら楽しく練習が進んだ。

またこの日はディドン神父の研究者であるAlain Arvin-Bérod氏が来られて、著書にサインとメッセージを書きそれぞれに贈ってくださった。私は日本に向けてのメッセージもお願いしたところ下記のようにいただくことが出来た。



著者：Alain Arvin-Bérod(1944 年生まれ)
AMOS Lyon 校の Director 校長　（スポーツビジネスに特化した学校）
本：“et Didon créa la devise des Jeux Olympiques” (“and Didon created the motto of the Olympic Games”)(「そしてディドンがオリンピックのモットーを作った」）
＊Didon とは、Henry Didon(アンリ・ディドン）(1840~1900）ドミニカ人の説教者、作家、教育者で若者のスポーツを推進した人。オリンピックのモットーの一つである Citius, altius, fortius (速く、高く、強く）を提唱した。

献辞　（訳：自由学園 矢野国際化センター長）

Pour le Japon, pays
de culture, desprit
et de philosophie...
Olympique of course!

Good luck for
the Olympic Games
in 2020
Best regards,
Alain Arvin-Bérod
27/08/19

For Japan, the country
of culture, of spirit
and of philosophy ...
Olympics of course

日本のために
文化と精神と
そして哲学の国、
もちろんオリンピックの国

2020 年のオリンピックに
幸運を祈ります

敬意をこめて
アラン・アーヴァン-ベロー

2019 年 8 月 27 日

＊この本は帰国後オリンピックミュージアムで発表の機会をいただいた際に館長の松永氏に寄贈した。

7日目　8月28日(水)スポーツテスト アートワークショップ③ グループディスカッション ③発表会

8月28日(水)		マコン　スポーツセンター
8:00	朝食	
9:00-12:00	クーベルタン賞の活動　スポーツテスト	
	クロスカントリー　男子２ｋｍ　女子1.7km	
13:00	昼食	
13:30-15:30	クーベルタン賞の活動	
	アートワークショップ３	
16:00-17:30	クーベルタン賞の活動	
	グループディスカッション３：友情ー文化の壁を越えて	
17:30-19:00	リハーサル	
19:00	夕食	
20:00-22:00	アートワークの発表会	外部施設
23:00	就寝	マコン　スポーツセンター

＜スポーツテスト：クロスカントリー＞

クロスカントリーでは事前の予定では3kmを走ることになっていたが、会場に合わせて男子は2km・女子は1.7kmと距離が変更になり、男女とも3、4チームに分かれて走った。長距離走の選手もいれば苦手な人まで様々だったが皆が声を掛け合いながらも真剣な面持ちで臨んでいた。

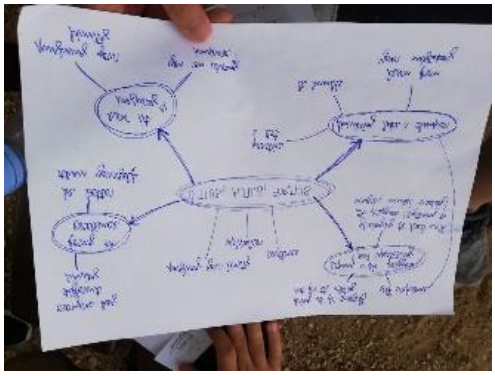
日本の生徒の中にはケニアの生徒と一緒に並走し、「オリンピックで日本の選手が海外の選手と並んで走っている様子が頭に浮かび、最高に楽しい時間を過ごせた」と語っていた。様々な違いがあってもゴール前では大きな拍手と声援を送り、お互いに”Good job"と健闘を称え合っていた。それぞれが改めてスポーツの心地良さを感じた貴重な経験となった。

スポーツテスト　クロスカントリー

＜ディスカッション③：**Friendship**＞

Discussion Topic 1:　Fair Play

Discussion Topic 2: “Citius, Altius, Fortius” - the pursuit of excellence.



最後のディスカッションでは過去2回の反省を生かし皆積極的な発言を心掛けていた。テンポの速い話し合いの中でも、自分の意見がマインドマップに書き込まれたりすることに喜びを感じたり、自身の課題を見つけた生徒もあった。

　意見を発言するところまでは順調だが、その発言から話が膨らんだ時が難しいようで、関連する単語や文章を事前に読み込んでおく事の大切さに気付いたようだった。

＜アートワークショップ発表会＞

3回にわたって取り組んできたまとめとしてアートワークショップの発表会が行われた。宿泊しているスポーツ施設から少し離れた小体育館が会場だった。日中にリハーサルがあり、夜20：00開会、劇やモダンダンス、ボディパーカッション、音楽など、どれも演技として完成され、日本の生徒達もすっかり意気投合し、練習の成果を生き生きと発揮していた。

アートワーク 発表会

フォーラムバナーのグループは、お披露目は後日のお楽しみということで急遽ダンスを行う場面もあった。この発表で高評価だった２チームは閉会式でも発表する機会を得ることとなった。最後は自然と全員がフロアに集まり大盛り上がった。

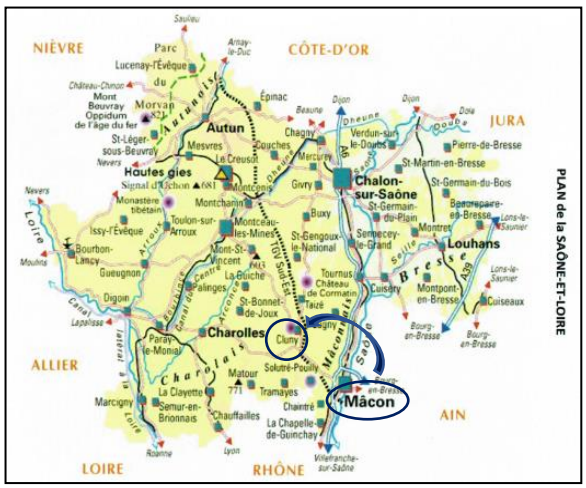
8日目　8月29日(木) Cluny town 観光　パレード　各国のダンス発表会

8月29日(木)		マコン　スポーツセンター
7:30	朝食	
8:15	観光（Cluny town）	バスで移動　Cluny　town
	昼食	大学の学食
17:00	パレードの用意	マコンスポーツセンター
18:00	夕食	
19:00	パレード・各国のダンス発表会	Esplanade Lamartine
23:00	就寝	マコン　スポーツセンター

＜Cluny town観光＞

バスで1時間ぐらいかけ、クリュニーという小古都を訪ねた。小グループに分かれオリンピックの開催地名毎のプラカードを持ったボランティアリーダーにつき、クイズに答えながら町を歩いたり、博物館を見学したりしながら皆楽しんでいた。教会で戦争の歴史を伺ったりする貴重な機会もあった。

街は静かで美しく、中世の装いをした老人が歩いていて、生活の様子が感じられる場所もあり、フランスの歴史や文化を感じられるひと時だった。また今回の中で唯



一お店に入って好きなお菓子などの買い物ができる場面も設けられていたため、皆リラックスして嬉しそうに過ごしていた。

食事は大学構内のレストランでいただいたが、1時間余り並ぶ必要があってなかなか大変だった。それでも生徒はその時間も他の国の人と話すことができて良かったと前向きに捉えていた。フランスでは食事をとても大切にしていることが改めて感じられ、時間がタイトでもお弁当やファストフードで済ませるような文化はないようだった。

この日はマコンの見学日同様に配布された青のTシャツを着るようにと指示があった。前回とは違って遠方に行くことと念押しがあり、ほぼ全員が揃いのTシャツ姿だった。

最後に円形競技場で全員での集合写真を撮った。

＜パレードの用意＞

戻ってからの時間で、生徒達はソーラン節の振りや本番での立ち位置の最終確認を行った。他の国もダンス発表会に向けて練習をしていた。これまでも休み時間に練習するなど工夫して練習を続けてきたため準備は整った様子だった。

＜パレード・ダンス発表会＞

夕刻、生徒達は各国の民族衣装に身を包み、今回制作されたフォーラムバナーを先頭に、それぞれも用意してきた自国を紹介する旗（シンボルフラッグ）を掲げて全員で列になって町をパレードした。日本チームは、2020年東京オリンピックのポロ

シャツに法被を着て、国旗と作ったシンボルフラッグを持って歩いた。フランスの人たちは陽気で、歩いている私たちを見ると、車の中からクラクションを鳴らしながら応援してくれた。

市庁舎前の広場にはダンスパフォーマンスのための舞台が作られて一般の市民の方々も鑑賞されるよう椅子が用意されていた。各国ともよく練習してきた民族舞踊などを披露し、手拍子と声援が贈られた。またダンスの終盤には観客を引き入れて一緒にダンスを楽しむ場面もあり、会場と一体になって盛り上がっていった。日本チームのソーラン節は、他国と曲調が全く違ったが、揃った迫力のある動きで、踊り終わった後は大きな拍手に包まれた。クオリティーが高かったと評価していただけ皆も満足げな表情だった。

9 日目　8 月 30 日(金)　アンケート　スポーツテスト補完　閉会式

8月30日(金)		マコン　スポーツセンター
7:15	体操	
8:00	朝食	
8:45	アンケート回答	
9:45	スポーツテスト（補完）	
13:00	昼食	
14:00	自由時間	
16:00	閉会式	
19:00	夕食	
20:00	ディスコ	
23:00	就寝	マコン　スポーツセンター

＜アンケートの回答＞

活動最終日となり、このフォーラムに関するアンケートが行われた。内容は今回のフォーラムの感想や運営側に反映される質問が多かったとのことだった。

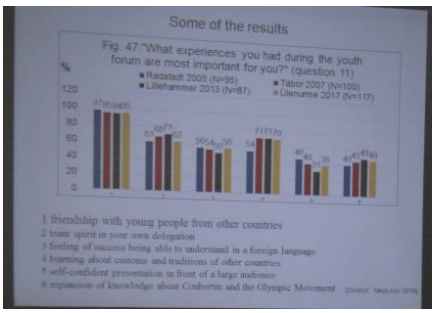
その後お互いのTシャツにサインをし合う姿があちこちで見られた。

＜スポーツテストの補完＞

これまで行ったスポーツテストの記録で基準値に２つ届かなかった人は、エルゴメーターで500m漕ぐという補完を行った。基準を超えたらクーベルタンアワードのスポーツ部門をクリアすることができるということで、日本チームも1人参加し、皆から声援を受け無事にクリアすることが出来た。同じく知識テストでも補完があり日本チームでも1人対象者がいたが無事クリアし、全員が課題をクリアすることが出来た。

＜教師ミーティング＞

今回のまとめとなるミーティングが行われた。これまでのフォーラムでの調査報告と今後のクーベルタンスクールのネットワークへの協力に関する議論があった。



調査報告から、このフォーラムで参加者が最も重要な経験となったことは「他国の若者との友情を育んだこと」といった興味深い結果が示された。アメリカの参加はなかったが会長が視察に来られていた。

＜閉会式＞

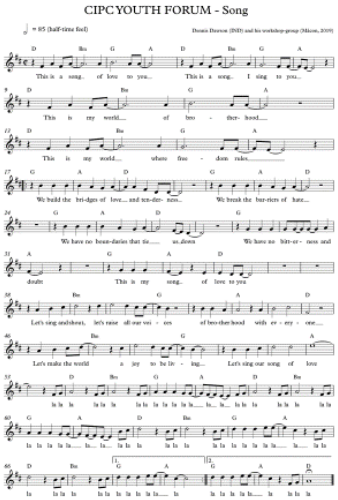
閉会式には日本チームは全員浴衣で参加した。高橋さんが皆の着付けを担当してくれた。

閉会式では、国際クーベルタン委員会会長始め、開催地マコンの市長他のスピーチが英語とフランス語で行われた。また開催にあたって尽力くださった団体やボランティア学生などの表彰も行われ感謝の拍手が贈られた。五大陸から1人ずつ選ばれた生徒が事前のボランティア活動から今回のディスカッションまでを含むまとめの発表を行い、日本の髙田君がその一人に選ばれた。アートパフォーマンスの発表では、完成したフォーラムバナーが披露された。前回まではそれぞれの国旗をつなぎ合わせていたようだが、今回は各国の旗の色が交じり合っていて、共生と言われる社

クロージングセレモニー

会の課題を背景に工夫されていることが感じられる素晴らしいバナーとなっていた。

続いて、アートワークショップで選ばれたボディパーカッションとダンスの発表では高橋さんと髙田さんが生き生きと発表を行い声援が飛んでいた。その他にフォーラム内で作成したビデオの公開や創作したフォーラムソングの紹介など盛りだくさんだった。



CIPC YOUTH FORUM – Song

Dennis Dawson(IND) and his workshop-group(Mâcon 2019)

This is a song of love to you
This is a song I sing to you
This is my world of brother hood
This is my world where freedom rules
We build the bridges of love and tenderness
We break the barriers of hate
We have no boundaries that tie us down
We have no bitterness and doubt
This is my song of love to you
Let's sing and shout, let's raise all our voices of
brother hood with everyone
Let's make the world a joy to be living
Let's sing our song of love
la la la, la la la, la la la la la la la la la la la la
la la la, la la la la la la la la la la la la
la la la, la la la la la la la la
la la la, la la la, 1.la la la la la la la la
2.la la la la la la la la la

引率教員の私たちも、密かに練習してきた歌（Let it beとラ・バンバ）を英語とスペイン語で披露した。クーベルタンアワードの授賞式では国ごとにメダルと証書が一人ずつに授与された。日本代表生徒は無事に全員がクーベルタンアワードを受賞することができた。

クロージングセレモニー　ｸｰﾍﾞﾙﾀﾝ賞受賞　　次回は2021年 キプロスで開催

最後に、副会長である田原先生の温かく心に残る総括のスピーチを伺い、次回開催国キプロスへ大会旗が引き継がれた。

10日目　8月31日(土)　マコンからリヨンへ　パリから日本へ出発

8月31日(土)		マコン　スポーツセンター
1:00	出発組お見送り	
5:00	出発組お見送り	
8:00	朝食	
9:00	出発	送迎車で駅へ
9:35	高速鉄道でリヨン駅へ	高速鉄道で移動
10:00	リヨン駅着（周辺散策と昼食）	
14:00	高速鉄道で空港へ	
16:00	空港到着	シャルル・ド・ゴール国際空港
20:30	出発	

＜出発組のお見送り＞

いくつかの国は翌朝1:00と5:00に出発だったこともあり、生徒達は見送りのために夜遅くまで起きて別れを惜しんでいた。ルームメイトが帰り、残った自分の荷物を見て、今まで一緒に過ごしていた部屋が物悲しく感じたり、お部屋にメッセージを残してくれた人がいたり、別れは思った以上に悲しかったようで、生徒達はこの期間に友情が深まったことを改めて実感しているようだった。

朝食後、日本チームがTGV乗車の為マコン駅に向かう時にも同様に見送ってくれていた。スタッフの方にマコン駅に送られリヨンへ向かった。

＜空港までの移動＞

30分ほどでリヨン駅に着き、生徒達は乗り換え時間の14:00までGoogle Mapなどを見てスーパーマーケットを探しながらおみやげの調達をしたり、お昼ごはんを食べるなどして過ごした。リヨンも歴史のある美しい町と聞いていたが、皆はお目当ての物を買った後は昨晩の影響で観光気分には全くならないようで、突っ伏して寝て時間を待っていた。そしてシャルル・ド・ゴール空港へ乗り換えて向かった。停車駅のアナウンスが丁寧にない為、停車時刻を見て電車を毎回降りなくてはならなかったが、わかっているつもりでも空港の一つ前の駅で降りてしまいそうになることもあり、地元の人に聞きながら空港に着いた。

11日目　9月1日(日)　パリから日本へ　解散

9月1日(日)		
15:25	東京組　空港到着・解散	羽田空港
18:55	中部組　空港出発	羽田空港
19:55	中部組　空港到着	中部セントレア国際空港

＜日本までのフライト＞

空港では早めに中に入り、更にお土産を購入したり、オシャレな空港内で写真を撮ったり皆楽しんでいた。待っている間も、空港でお向かいに座った民族衣装を着た黒人の男性に気軽に声をかけて親しくなっていて驚いた。生徒達の成長を感じる一コマだった。

機内では、朝方までの見送りで睡眠不足のため、あっという間にぐっすり眠っていた。中には、ずっと寝ていたため「お目覚めですか？機内食をお持ちいたします」と書かれたシールが目の前に２枚貼られた生徒もいたようだ。途中、珍しくオーロラが機内から見えるということで、アナウンスで紹介があった。客室乗務員さんに伺ったが、7～8年乗っていて初めて見えたとのことだったので、よほど珍しいことだったようだ。生徒はすぐに寝てしまったが、暫く見ているとチリのようなものがゆらゆらと集まってきて、いつの間にか光のカーテンになる様子を見ることが出来、貴重な経験になった。

パリ空港にて　機内からオーロラを見る

日本到着　　中塚先生にご挨拶

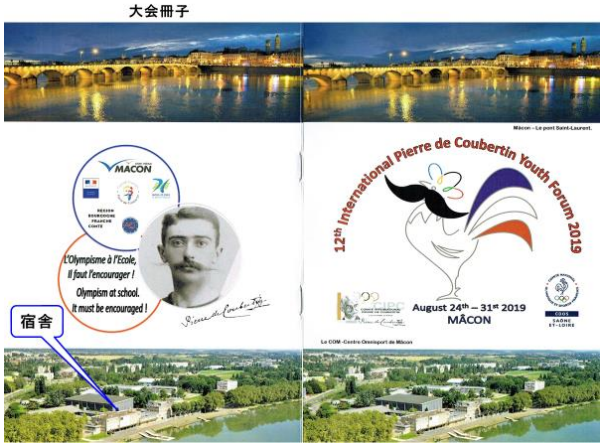
9月1日、無事日本に到着。空港内には東京オリンピックのポスターが貼られていた。生徒達はお迎えに来てくださった中塚先生や保護者の姿を見ると、日本に着いた安堵の表情を浮かべていた。半面、「まだ自分の心はフランスに置いてきたような気がして、何だか少し逆ホームシックを感じるようだった」と複雑な気持ちがあったようだ。

「あ―これでもう大丈夫なんだ！」と生徒達がほっとした表情で顔を見合わせた。フランスでは自分の貴重金だけでなく、移動時には必ず皆の荷物を守る役割を交代で担いながら行動してきたため、どうやら私が思っていた以上に緊張して過ごしていたようだった。日本がどんな国か改めて考えたようだった。

旅の途中では洋服を忘れたとかメダルを忘れたかもなど、小さなことは色々とあったが、とにかく全員が怪我もなく無事に研修を終え帰国できたことに心から感謝した。

最後に田原先生や中塚先生のお話を伺ってそれぞれ帰路についた。中部組の成田さんはそこから別行動

大会冊子



大会組織委員

下段　国際オリンピック委員会
トーマス バッハ会長　挨拶

Ⅳ．生徒の感想

皆がとてもよく書いてあるので、そのままご紹介します。

私はスポーツへの関心がとても強いです。なぜならスポーツのもつ、相手を尊重する精神に感銘を受けるからです。対戦する中で共にプレーできる相手がいることに感謝し、互いを認め合う。そこにフェアプレーが生まれる。フェアプレーの精神の下、己の力をぶつけ合う姿は、周りの人間を熱狂に包み、勇気づけるエネルギーを発生させると考えます。またスポーツは言葉でなく心で通じ合う手段にもなると考えています。平等なルールの中で一緒にプレーすることで、相手との距離が縮まっていきます。私は本プログラムの中でスポーツ交流のひとつ、競泳が最も印象に残っています。なぜなら、オリンピズムを一番強く肌で感じたからです。メンバー全員が得意不得意に関係なく同じの条件で行い、メンバーの中には初めてプールに入る人もいるなど、アスリートレベルの人から初心者まで経験の差が大きい競技でしたが、苦手な人に上級者がアドバイスをするなど各々がベストを尽くせる環境を自分たちでつくっていきました。これは一つの目的を協力しながら共に達成し、成し遂げるために重要な時間だったと感じます。全員が同じルールで競技を行ったことで、それまではぎこちない雰囲気だったけれど、会話が増えより仲が深まったのではないでしょうか。このプログラムに参加する前は、苦手な人に条件やルールを合わせて、対戦する相手との力の差が出ないようにすることがフェアプレーだと考えていました。しかし、同じ条件の中で得意な人も苦手な人もそれぞれがベストを尽くすことがフェアプレーであると考え方が変わりました。

プログラムの中では、メンバーがスポーツ以外の面でも、互いの個性を認めていることを多く実感しました。普段の会話では各国の文化について積極的に質問し、互いの生活背景を共有することで相互理解を深めていました。また、性別や国籍関係なく平等に接し、真摯に人の話を聞く姿はまさに、スポーツで見せたリスペクトやフェアプレーの精神そのものでした。これまでは、言葉以上に相手との距離が早く縮まったり、人との関わりを大切にする心を育んだりする点が、スポーツの良さであり、好きなところでした。しかし世界中の人々と多様性があたりまえの環境で生活したことで、スポーツの良さの根源は私たちの日常生活にあると気づきました。今の日本は多数派の中で少数派は浮いてしまう。これからは多様性をあたりまえと考えることが一人の人間として求められるということが、このプログラムで分かりました。

筑波大学附属坂戸高等学校３年　髙田伊知郎

今回のユースフォーラムに参加したことは私にとって今とても大きな自信になっています。そう感じている１番の大きな理由は現地で関わった世界中の同年代の子達とスポーツを一緒にしたり密度の濃い時間を共に過ごしたりと刺激的な日々を過ごせたことにあります。

私はこのプログラム参加者の中で英語が話せない方でした。そんな私はフォーラム中英語の面でたくさんの刺激を受けました。一生懸命に話を伝えてくれるインドの子、ディスカッションのトピックを一緒に考えてくれるポーランド、スロバキアのルームメイト、食事時間に日本の事を質問してきてくれるドイツや南アフリカの子、観光を一緒に楽しんだチェコ、ノルウェーの子、彼らと話す時間はかけがえの無いものだと感じています。もちろん自分の英語のレベルの低さやものを伝える難しさも感じました。しかしそんな中で私は彼らと過ごすことで言語が全てではないことを知りました。彼らの笑顔だったり目を見て話すこと、彼らとするダンス、そしてスポーツは言語を越えて繋がれるということを教えてくれました。結

果的には言語面で少ししんどく思うこともありましたがその日々を過ごしきれたこと、そして言語以外でも人と繋がれることを知れたことが今私に大きな自信をくれています。

そして私にはもうひとつ感動したことがあります。このプログラムのスポーツテストでは、出身も運動の好き嫌いも様々な人たちが一緒に参加しました。一番だった人が偉いわけではなく、できないことでも懸命に取り組む姿を皆が応援し合うフレンドシップを現地では多く感じました。スポーツを通して国境を越えて人と繋がれるということは素敵なことだと思いました。このことを頭だけではなく体で実感できたことはとても貴重だと思います。この経験をさせてもらった私は周りの人にそれを発信していくべきであると今回のフォーラムを通して考えました。スポーツは世界平和に繋がるツールのひとつであり、オリンピズムを大切にしていれば言語が通じない相手ともお互いに共通点が多くあることを知れるでしょう。それを忘れずこれからの生活を過ごしていきたいです。ありがとうございました。

自由学園女子部高等科２年　髙田和実

他の国の人と交流することがこんなに楽しいと思いませんでした。私は英語が話せず、海外へ行くことも初めてで、他の国の人と関わる経験もありませんでした。私にとって起こることの全てが、新鮮で刺激的でした。現地に着いたとき、周りに日本人がいない環境、自分の耳に入ってくる言葉は全て英語か他の国の言語、ということに圧倒されてしまい、何も話すことができませんでした。自分の言いたいことを伝えられず、何度も心が折れそうになりました。そこで初めて、英語を話せることが、どれだけ大切かということを実感しました。それでも、みんなは英語が苦手な私を馬鹿にせず、たくさん話しかけてくれました。このフォーラム中、たくさんの人の優しさに何度も何度も救われました。だからこそ、私も諦めずに伝え続けようと思い、想いが通じ合えたときは本当に嬉しかったです。しかし、私の英語力では伝えられることに限界がありました。英語をもっと勉強し、話せるようになろうと強く思いました。

このフォーラム中で嬉しかったことは、私たちが住んでいる日本のことを知ってくれている人がたくさんいたことです。特にアニメやキャラクターのことを知っている人は想像以上に多かったです。また、日本語で自己紹介をしてくれた人やボランティアの中で日本語が話せる人に出会ったことも衝撃的でした。

国内合宿に参加して講義を受けてから、そしてフォーラム中も、クーベルタンは世界がどのようになることを願っていたのだろう、オリンピズムとは何だろうと、言葉で表せないものを探してきました。フォーラムの参加者は、いつも明るく楽しくて笑顔が溢れていて、その中でそれぞれが持っている excellence を発揮していました。そしてそれを認め合い、お互いを respect することを忘れず、例えそのスポーツができなくても、英語が話せなくても、「できない」ということに焦点も当てるのではなく、できないのだったら、助け合おう、応援し合おうと、みんなで乗り越えていくことで friendship が広がっていきました。その雰囲気を自分自身が体験し、これこそがオリンピズムだと感じました。また、スポーツをみんなでしたり、応援し合ったり、ダンスを一緒に踊り、盛り上がっているとき、ふとみんなが一つになっていると思いました。言語の壁はどこにもなく、言葉を発しなくても、みんなで一つに繋がっていて、私はスポーツやダンスには言葉の壁を乗り越え、みんなを繋げることのできる力があると実感しました。このフォーラムはミニチュアのような世界だったけれど、この雰囲気がフォーラムだけではなく、世界中に広がれば、クーベルタンが描いていた理想の世界に近づくのではないかと思いました。

この 1 週間は本当に濃く、ずっと夢の中いるような感覚でした。23 ヶ国、約 170 人の高校生と一緒に過ごした時間は、一生の宝物です。このような経験は、もう二度とできないものだと思います。引率して下

さった先生方、関東地区のメンバー、参加するまでの期間に関わってくださった方に感謝の気持ちでいっぱいです。

中京大学附属中京高等学校２年　成田乙葉

私は、今回のフォーラムに行く前に語学留学でイギリスに行ったことがありました。そこでは、もちろん文化交流や様々なイベントを体感することができましたが、この国際ピエール・ド・クーベルタン ユースフォーラムというフォーラムは、私が行った語学留学と比べて、また別のものを体感したような気がします。例えば、文化交流。留学では、『他国の子から自分の国について聞かれたら答える、自分の知ってる範囲で自分の国について語る。』など、もともとの目的が語学留学ということもあり、他文化に触れる程度しか文化交流を行ってきませんでしたが、今回のフォーラムでは、『自らが自分の国を調べ、発信し、共感や感動を提供する』という自分の国の事を積極的に伝えていく、または他国の事を積極的に知りに行く形をそれぞれの国のメンバーがとっていたので、他文化に触れるだけではなく、自分の国の文化を知るということもでき、留学の時との違いを感じました。さらに、私が言いたいことがなかなか出てこなくて困っているときに、周りの友達・メンバーが、私が言いたいことなどを代弁してくれたり、最後まで話を聞いてもらったりして、最高の仲間たちとこの 11 日間、言葉では表せないほどの感動をスポーツを通して味わせていただいたと思います。

また、今回のフォーラムを通してもし日本でこのフォーラムを開催するのであれば、その時までに私たちは何をすればいいのか考えてみました。まず、今回のボランティアの方々を見て、私は第二外国語・第三外国語を勉強する必要があるなと思いました。なぜならば、ボランティアの方々の多くは、トリリンガルの方が多く、中には、使用頻度の少ない日本語を話せる方もいて、その人の存在が大きく私は安心してこのフォーラム中過ごすことができたからです。私たちも、英語以外に話せる言語を習得しておくことで、安心する参加者が出てくると思うと、今から準備しておいた方がいいのかもしれないと思います。

最後に。今回このフォーラムに参加したアジアの国は日本・インド・マレーシアの３カ国でしたが、私はこのフォーラムはもっと多くのアジアの人達が参加すべきフォーラムだなと思いました。なぜなら、クーベルタンが考案した『オリンピズム』を今オリンピック・パラリンピックに参加している人達だけでなく、見る人や開催する人達にもっと知ってもらうには、圧倒的に今回の参加国だけでは足りないからです。オリンピックは今や殆どの国が参加しているのにも関わらず、今回のフォーラムの参加国は昔のオリンピックのように限られたものでした。これから先、このフォーラムは参加者が得ることができるものがかなり多いので、もっと世界中に知ってもらうべきフォーラムになると思います。今年参加してなかったアジアの人達だけでなく、世界中の 10 代がこのフォーラムをこれから先体感していってほしいと思います。

去年のクリスマスから今まで貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。これから先、今回の体験を活かして様々なことに挑戦し前に進んでいきたいと思います。

筑波大学附属高等学校２年　高橋りく

私はスポーツと英語を使って海外の人と交流をすることの両方が大好きだったので、このフォーラムがあると知った入学時からぜひ参加したいと思っていました。前回行った先輩や先生方からの話のなかで、どの人もこのフォーラムはとても充実感のある楽しいものだと言っていたので、自分がメンバーに選ばれたと分かった時から楽しみでたまらなかったです。しかし、行くことが現実的になってくるなかで、楽し

みさだけでなく、自分の英語は伝わるだろうか、外国人の雰囲気についていけるだろうか、などの不安も少なからずありました。

しかし、そんな悩みとは裏腹に実際、マコンに行くと、本当に充実していて、一瞬で過ぎてしまった一週間でした。正直最初は日本以外の国の人たちの英語能力の高さと、フレンドリーさ、また大人っぽさに圧倒されて、自分からはあまり積極的に話しかけたりはできませんでした。でも、ルームメイトやごはんで同じテーブルの子など、身近な人たちとしゃべっていく中で、つたない英語でも聞き取ろうとしてくれるし、臆病にならずに話すことが一番大切だということに気が付きました。

また、スポーツをはじめとするアクティビティは参加者たちの関係をぐっと縮めてくれました。オリンピックがテーマということもあり、参加者もアスリートが多かったです。私は水泳をやっているのですが、スイマーやトライアスロン選手、飛び込み選手、シンクロナイズドスイマーなど多くの水泳選手と話したり、タイムを競ったりしました。また、泳げない子や泳ぐのが苦手な子に教えたりすることもありました。水泳を通して仲良い友達が増えたのもうれしかったし、何よりスポーツは国境を越えて人を結ぶ、ということを言葉だけでなく実体験として感じることができました。アートワークショップ、ミニエキスポ、ディスカッション、ディスコ、マコン観光、、、どのアクティビティもそれらを通すことで、友達が増え、また彼らとより仲を深めることができました。アクティビティが充実していることがこのフォーラムの魅力の大きな一つだと思います。英語ができる人もできない人も、スポーツ、文化的活動を通して国境を越えて仲を深めていく、というまさにオリンピズムの真髄を体感することができました。

たった一週間でしたが、私たちフォーラム参加者の間には国境を越えて多くの友情、絆がうまれたと確信しています。言葉に表せないくらいの刺激と充実感、そしてたのしさがつまった一週間でした。二か月以上たってこれを書いている今も、思い出は色あせず、そして友達たちが恋しい気持ちも変わりません。このフォーラムでのすばらしい縁をこれからも大事にして行きたいと思います。そして、自分がいつかそのような経験を提供する、手助けする立場になるときには恩返しの気持ちも込めて尽力したいと思います。

筑波大学附属高校２年　秡川典子

今回、ユースフォーラムに参加した動機はスポーツ、コミュニケーション、異文化交流など以前から自分の中にあった興味のあることにプログラムの内容がとても強く関連していたからです。自分の好きなことができただけでなく、本当に最高のメンバーに恵まれたため、フォーラムの準備の段階から楽しくて仕方ありませんでした。

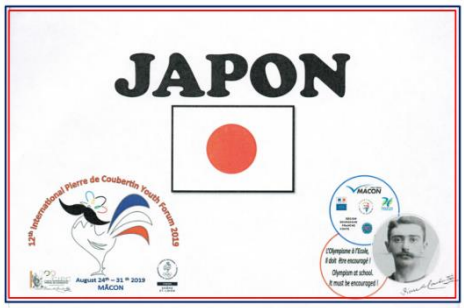
フォーラムが開催される街であるマコンに着いてから少しの間は不安が大きかったですが、ルームメイトといち早く打ち解けることができたことでその不安も解消されました。1 人友達ができるとその友達の国のチームのメンバーを紹介され友情の輪が急速に広がっていきました。

お互いの国や文化について話したり、好きなスポーツについて話したり、将来の夢について語ることもありました。お互いに関心を強く持っていたため、話題は尽きることは不思議とありませんでした。廊下ですれ違った時、部屋に遊びに来てくれた時、食事を一緒に食べた時、プログラムで同じグループになった時など時間と場所を問わず同年代の仲間たちと関わることができました。人種、国籍、文化など参加者全員が違いを持っているにも関わらずそのような違いを乗り越えて全員が時間を共にしました。開会式やミニエキスポでも中身や外見が違っても僕はマコンにいた１分１秒が刺激的で幸せな時間だったと断言できます。

今でも鮮明に覚えている思い出の中にはスポーツテスト、ディスカッション、アートワークショップなどのプログラムでオリンピックの精神を学べたことも大きく残っています。特にスポーツテストのクロスカントリーで走っているランナーに声を掛けて応援し、フィニッシュしたランナーに駆け寄って頑張りを褒め合うことが強く印象に残っています。僕自身走っている最中に沿道から大きな声援が聞こえたことや、同じグループで走った友達とお互いを讃えあったことなどからただ競うだけではわからないスポーツの本当の価値に触れられた気がします。一週間という短い期間の中でしたが、全員が「家族」のような関係になったと思います。そのような関係を構築できた背景にはスポーツを愛する気持ち、そしてオリンピズムがあったことも大きいかと思います。

僕の人生にとってこのフォーラムに参加できたことは言葉では言い表すことができない価値がありました。これからの学生生活、そしてその後もフォーラムで学ぶことのできた「人と違いを超えて繋がられた経験」を忘れずに過ごしていきたいと強く思っています。ありがとうございました。

自由学園男子部高等科２年　八木暁



【帰国後の報告】帰国後は各学校等で様々な形で報告が行われた。

Ⅴ．ディスカッション

山田：参加者はそれぞれに良い力がありました。髙田さんがいると自然とみんなが集まってきてフレンドリーな空気が流れ、各国の人たちと良い交流が出来ていました。成田さんは初めての海外ということでかなり心配していた様子でしたが、一番成長したと思います。積極的になり自分が変わったと感じているようです。中部から 1 人でしたがよく頑張りました。八木君は海外での留学経験があり、彼がいるとその場が明るくなり自然とリーダーシップをとっている。威張っているわけでなく、国籍関係なく、日本の友達と同じように交われていました。せっかくだからと皆が日本人と接しないように振る舞うのでもなく、日本人とも他国の人とも自然に関わり、協力しながら良い関係が作れていました。髙田君は 5 大陸の代表に選ばれたように、知的にまとめてくれるところがあり、頼りになる存在でした。高橋さんは細やかに準備や確認をしてくれていましたし、祓川さんは物おじしないパワフルさがあり、前向きな空気を醸し出していました。誰がトップとかリーダーとか決まっていなかったのですが、その場その場で持ち味を生かし、それぞれの力を発揮していて、その時々で中心になる人はいるのですが、目立ったり奢ったりするのでなく、協力しながら日本チームが出来ていたと感じます。

このチームの中で、実力を発揮しながら安心して学び成果を出せていて、私も一緒に過ごしていて嬉しいことだったと思っています。

大人としても色々な国の先生がいらしていて、皆さん本当に良い方たちでした。私は教員の 2 人部屋で、南アフリカの先生とご一緒しました。私が初参加の為、色々と声がけしてくださったり、他の教員の方々とも交流する機会をいただいたりして良い経験になりました。

今回の活動のモットーは「学校でのオリンピズムを推奨されなければならない」ということでした。スポーツの取り組み、社会的な繋がり、同道徳的な行動、オリンピックの知識、音楽及び芸術的創造性といった 5 つの色々な取り組みの中で見事に融合していったと感じます。この活動の中の一つを行えば何かが出来るようになるといったことではなく、このたくさんの活動を一緒に行っていった、そしてそれを発表したり、記録に挑戦したり、話し合いをしたり、それらが全てこの会場で行われていたことが、クーベルタンの思想を学ぶ、オリンピズムを学び実践する大事な機会になっていたのだと思います。

私の学校は自由学園という学校で、デンマーク体操をすることが多いのですが、今回の経験から、競技でない体操もここに繋がってくることがあると改めて考える機会になりました。普段体操していると、競技は別物といった意識になっていましたが、クーベルタンはそうではなく、競技は競技であっても、そこに取り組む過程や一生懸命な姿勢、参加することが大事なんだと提唱している。取り組むことが大切で、そこに賞やメダルがついてくるということで何か差別や区別をするのではでないのだということをこの期間に度々感じる機会があり、色々と考えさせられました。体操も繋がっていると改めて感じています。

この機会をいただいて、自由学園の歴史も振り返る時がありました。実は金栗先生が自由学園創立初期にマラソンを教えに来てくださっていて、女子のスポーツのこれからについて、婦人之友で創立者と対談していたことも分かりました。私自身も視野が広がり、この機会をいただいたことに心からお礼を申

し上げたいと思います。まだ何か受けている途中といった感じがしています。今後も私なりの学校でのオリンピック、オリンピズムに生かしていきたいと思います。色々とありがとうございました。
生徒達は現在活動報告書を作っている最中です。LINE や Google などのツールを使って、近くにいなくても繋がって準備が出来るよう工夫していました。それでも名古屋から成田さんがたびたび、集まりの為に東京に来てくれて、メンバーの家に泊まることもありました。中京の先生方もその度に代わる代わる足を運んでくださいました。お礼申し上げます。遠方の方の参加に関しては今後も課題として考えていけると良いと思います。

中塚：感想や質問のある方は自由に話をしましょう。

青柳：新聞に毎回掲載されていたと報告されていて、それは市内でもユニークで特徴のある催しだったということで取り上げられていたのか。市長さんも来ていたと伺ったが、どちらかというと戦略的に取り上げられていたのか、どちらもなのか、ご存じでしたら教えていただきたい。

山田：市をあげて色々な関わりを持ってくださっていたということは見受けられました。この辺りのことは田原先生からお話しいただけたらと思いますがいかがでしょうか。

田原：たぶん両方だと思いますね、今回のユースフォーラムのひとつの特徴は、地域とかメディアの人たちとか、本当にいろんな人たちが協力して運営をしているということでした。これまでのユースフォーラムは、学校がホストになり、学校の先生たちが主になり、生徒達が補助し、学校ぐるみで運営をしていたことが多かったのですが今回の場合、フランスにクーベルタンスクールがないわけではないのですが、いまあまり活発ではないということもあり、フランスのオリンピック委員会がホストをするという形でした。おじいさんやおばあさんたちが一生懸命走り回ってお水を運んだりお世話をしてくださり、競技のときの補助員をしてくださり、そういったことを年配の方も含めて皆さんでされていました。その辺もこれまでとずい分光景が違っていました。
先ほどの山田先生のお話にもあったように、開会式、閉会式でもものすごくいろんな人が出てきてたくさんスピーチをされるんです。体育館ですごい暑さの中、それを皆で聞いている。ほとんどフランス語で話され、通訳も入るので、フランス語でバッチリ話された後、英語で話されると時間的には倍伸びちゃうんですね。これまでは英語で話されるだけだったので、その辺も違いました。
先週別の会合でフランスに行ったんですが、フランス人はスピーチが好きなんだということがまざまざとわかりました。時間は関係なく、とにかくしゃべるのが好きというところがあり、その一端がこれでわかったというところですね。本当に多くの人たちが協力して、資金的な援助もして、大成功に導いたという感じでしたね。

中塚：日本でやるときの 1 つのモデルになったという感じですね。

田原：そうですね。私もそのように思いながら眺めていました。どのようにスポンサーを集めてくるのかとか。地域の市長さんや、もう少し広い地域、あるいはオリンピック委員会。今回はフランスのオリンピック委員会の会長も表敬訪問に来られました。非常にレアなケースでした。フランスのクーベルタン

委員会も勿論ですが、いろんな人の協力を得ながら行われていて、将来的に日本の参考になるケースでした。
山田先生は素晴らしい引率の先生です。いろんな学校の生徒さんを連れて海外に行き、安全に、無事に終えてくるのはものすごく大きな負担や責任感を持たれて大変だったと思います。生徒さんと共にずっと見て来られて細かい配慮をされ、本当に素晴らしい先生だなと、近くにいて思いました。

中塚：次回はぜひ内藤先生も。

田原：本当にいろんな先生に経験して頂いて、また先生方のネットワークも出来ますし非常にいい機会かなと思います。山西さんが行かれた北京の時とはだいぶ違うかもしれませんね。

山西：ご飯がうらやましかったです。

田原：食事はおいしかったですよね。それは今までの中では一番だったかなと。食事へのこだわりがあって、何はさておき食事にはしっかり時間をかけておいしいものを食べるといった感じでしたね。

中塚：どうですか諏訪さん。明星大学の授業で、以前のユースフォーラムを紹介しましたが、感想を。

諏訪：自分の知らない世界でした。高校生の時にそのような世界を体験できるのは、その後の人生が違ってくるだろうなと感じました。生徒たちの表情が、最初と最後で違う感じが伝わってきて、私も高校でこんな経験が出来たら良かったなと。あとはやっぱりスポーツのすばらしさ。感想にもありましたが、話せなくてもスポーツをすることによって繋がれる素晴らしさがあるんだなと改めて感じました。もっと保健体育の勉強をしたいと思いながら聞いていました。ありがとうございました。

中塚：お母さんの感想もお聞きしたいですね。

高橋：最後の感想にも多様性という言葉がでてきていましたけど、やはりダイバーシティってすごく大事なことで、彼女は初めて LGBT の人に会ったと言ってるんですね。例の、カーテンのないシャワーに入っているときに同室の子がオーストリア人だったがオーストリア人の男の子がワァッと入ってきた。彼女の部屋は日本から持っていた突っ張り棒でカーテンを作っていたらしいんですが、キャーとなったらしいんですね。そうしたら「大丈夫、彼はゲイだから」と言われたらしく、何が大丈夫か彼女にはわからなかった。初めてゲイの男の子にあって、同室 4 人の女の子とその男の子で話していたら、別にだから何と、何も違いがなかったと。何も変なこともないし、違和感もなかったし。あ、そういうことか、と身をもって感じたらしいんですね。そういう多様性を身近に感じた出来事のひとつだったと思うんですね。いろんな国の子が集まっていろんな違いを感じて、自分が日本人としてどうして行ったらいいのか、来年オリンピックで今度は迎える立場になったときに、何を考えたらよいのか、どういうことが出来るんだろうかと、そういう事を考えているようでした。本当に得るものがたくさんあったと思います。本当に良かったと思います。経験を色々させていただきましたし。彼女は新聞のインタビューにも

答えたんですね。それを持って帰ってきたんですが、フランス語なのでグーグル翻訳で一生懸命訳しました。何か色々と感じたことがあったようです。

田原：何か本当に生徒さんが自信を持っていて、皆さん行く前から優秀な生徒さんばかりなんですけれど、行っている間に本当に益々生き生きしてきて、自信もつけてきて、中塚先生もおっしゃってたんですが、空港で饒舌になっていて、進化、さらに活発になった感じがしますね。

中塚：行く前から何となく予感はあったんです。英語はそんなに得意じゃないけど、自己表現ができそうな 6 人だったし、事前の準備でどんどんチームになっていく様子が見て取れる感じでね。かつては 2 人だけのオブザーバースクールで行って、人数が増えてくる面白さがありますね。チームになっていく面白さも。

山田：現在筑波の生徒さんたちは英語のポスターを制作中です。作ったらグーグルドキュメントに載せて皆で見て確認し合っています。

中塚：これが 11 月 7 日に出てくるやつじゃないですか？

山田：そうです。

中塚：中心になって作っているのは坂戸の髙田君です。

山田：今、ネイティブの先生にも確認してもらっているところで、少し抜けていることを補足したりして 11 月 7 日に英語で発表予定です。

中塚：濱本さん、11 月 7 日のことも含めて感想を一言。

濱本：濱本と申します。本日は発表をありがとうございました。実は　WWL（ワールドワイドラーニング）という、SGH（スーパーグローバルハイスクール）のあとの事業があります。一校がやるのでなく、大学とかの教育機関が中心になって複数校で。拠点校はいま坂戸にありますが、ワールドワイドという名前で海外との交流を含めながら、グローバル人材育成と、その中で重要なのは SDGs。日本の方はさらにソサエティ 5.0 まで行ってますが、未来に向かって地球規模課題に対して関心を持ち、その一角を担うグローバル人材をということです。今回特に感じたのは、2 国間の交流は多いんですが、このように複数国での交流事業はない。
お聞きしたいのは、3 人から 5 人が相部屋で、違う文化の中にポンと入るわけですよね。最終的には互いをリスペクトするでしょうが、途中、価値観は違うは、マナーは違うは、鍵一つかけるのも違うわけですよね、全然違うところから乗り越えていく。なかなかそういうのはないです。学校間同士の交流、SSH もやっているのは、お互いの学校が自国で頑張ったことを発表しあって交流するのはあるんですが、その場で組んでテーマを与えられて、のたうち回って解決していくというのが最近やっぱり主流、そうじゃないと意味がない。国を代表して発表して交流してわかり合うんじゃなく、白紙の状態から一

緒に共同作業する。そういう意味で、今回は最初から一緒に生活しているわけで、文化の違いとかそのあたりとかものすごく大変じゃないかと思います。トラブルありますよね、絶対に。

山田：鍵の件が一度ありました。その部屋は仲が悪かったわけではないのですが、遅れて出る日本の生徒が室員から「鍵をそこに置いておいて」と頼まれた。先にその、他国の生徒が帰ってきたら鍵がなく、用事があるのに締まっていて入れないので、あなたが持ったままなんじゃないの！とかなり責められたことがあった。どうもスタッフの方が、皆で出かけるので開いている部屋は別の鍵で閉めてくださったようでした。部屋を開けてもらうと、言われた通りに部屋の中にちゃんと鍵が置いてあったんですね。ほらちゃんとあったね、あったんだね、ごめんねと、それがわかるまで生徒達は険悪なムードでしたが、収まりました。その後どうなるかと思って見ていると、怒っていた生徒は、よりフレンドリーに温かい対応をするようになって、このことがあって乗り越えたこともあったという感じで、一緒にいることで出来上がってくる関係性があるんだなと感じました。

濱本：そのような話が聞けるのではないかと思っていました。11 月 7 日に、坂戸が拠点校ですが「高校生ＥＳＤシンポジウム」が開かれまして、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、今年からオーストラリア。オーストラリアはクーベルタン出てますね？マレーシアも出てる？他はそうでもないと思いますが、その中で発表してもらって、少しでも ASEAN 諸国にピエール・ド・クーベルタンを広げる役割をしてほしいと思っています。いくつか発表があるんですが、今年は今までと違って異色ですよね、こういう取り組みは。これまで各国がやってきたものとかを発表してきたが、20 何か国と共同生活をしたという発表を、しかも東京の地で ASEAN のみんなに広めるという、ぜひ冒険してみたいと思って中塚先生にお願いしました。11 月 7 日です。

中塚：どなたでも参加できるんですよね？

濱本：満杯ですが、何となく東京キャンパスにきてポスターを見ることはできると思います。

田原：ご案内いいでしょうか。1 月 26 日（日）、日本オリンピック委員会が設立したジャパンオリンピックミュージアムで、クーベルタンの特別展が 1～2 月に行われます。メインのプログラムの中で、国際ユースフォーラムに参加した高校生の発表、参加者の報告会をやりたいと思って JOC と計画中です。午前中に高校生に発表してもらって、そのあと続きで、写真にあった国際クーベルタン委員会会長のステファン・ヴァッソンさん、ドイツのケルン体育大学教授の方が来日していただけることになりましたので、この報告会に引き続いて、比較的若者向けの講演：クーベルタンとアスリートというテーマで一つ考えてもらっています。午後、大人向けの講演：クーベルタンの現代的意義をお話していただく予定です。今回国際ユースに参加された生徒さんにはぜひ来ていただきたいので、早めに日程を抑えていただきたいと思います。8 月には日程の確認は取れていますが、改めて日程の確保をお願いします。過去に参加された山西さんらにも来ていただき、親睦を深めてもらえればと思います。お昼は立食パーティ的な交流にしたいと思っています。ご家族の方も、お時間許すようでしたら是非ご参加ください。

中塚：貴重な機会ですね。宣伝ついでに「サッカー×アートー日本サッカーのシンボルをめぐって」というシンポジウムを企画していますが、これも 1 月 26 日の午後に、本校敷地内の桐陰会館で行われます。これまたビッグな企画になると思いますので頭の片隅に入れておいてください。このほかおまけですが、いま部活動問題が大きくクローズアップされており、ちょうど 11 月 7 日にセミナーがあります。裏面はサロンの月例会案内です。次回 12 月 22 日（金）は、先ほどから話題のボッチャを取り上げます。さらにチラシをお配りしましたが、ノンボーダー・ボッチャ交流会を企画しています。皆さんもチームを作って参加ＯＫです。ボッチャ交流会は、クーベルタン嘉納ユースフォーラム、国際 YF にはつながらないけど、都内の高校生対象で企画します。
こんな感じで、2020 が終わってもずっと続けていきましょう。山田先生、最後に一言お願いします。

山田：今日はお忙しい中皆さんお集まりいただきまして、拙い報告で大変失礼致しました。帰ってからのご様子や皆さんの関わりの中でのお話を伺わせていただけたことで、私も今回のことを自分の周りにどう生かしていったらいいのか、今後どのように取り組んでいくかなど考える機会になりました。貴重な時間を過ごさせていただいたことに感謝申しあげます。中塚先生には準備の段階から大変お世話になり、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。田原先生、本当にありがとうございました。これからも自由学園の生徒達も皆さんと関わらせていただくこともあるかと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。
マコンでいただいた資料を並べました。ボッチャなどフランスではとても盛んなようです。本もいただきましたのでよかったら手に取ってご覧ください。

中塚：NPO サロン 2002 の冊子をまだお持ちでない方はどうぞ。
では行ける方は近くの中華屋で、続きの話をしましょう。

以上

Ⅵ. 補　足

【日本オリンピックミュージアムでの報告】

会の最後に田原先生からご案内いただいた下記フォーラムに参加させていただきました。

「JOMクーベルタンフォーラム2020」

日時：2020年1月26日

会場：Japan Sport Olympic Square

主催　：　日本オリンピック委員会　(JOC)

テーマ：「高校生が出合い、体験した世界とオリンピズム」

＊日本オリンピックミュージアム（JOM）にて開催していた企画展「オリンピズムの原点を紐解く–クーベルタンのことばと思い–」の関連イベントとして行われた。

–ホームページより–

国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムに参加した高校生 6 名と引率教員である学校法人自由学園の山田恵子先生が登壇。「高校生が出合い、体験した世界とオリンピズム」をテーマに、フォーラムの参加報告を行いました。2019 年の 8 月 24 日〜31 日に開催されたフォーラムには、23 か国から 120 名が参加。高校生たちは、オリンピック、パラリンピックの競技体験や、オリンピズムを学ぶための文化プログラムなどの内容を紹介すると、「性別、国籍、人種、文化の違いを乗り越えて、多くの人と友だちになることができました。とても良い経験になりました」と感想を述べました。

＊当日は前回、前々回の国際ユースフォーラム参加者の酒井君と原嶋さん（自由学園最高学部生）も登壇し、フォーラム参加後どのように生かされているかなどの感想を話してくれた。